



平成29年1月18日

報道機関 各位

東北大学大学院情報科学研究科

シンポジウム「『情報科学』から『行動の因果』を考える」開催案内

— “みなもと”を探る。 “あらわれ”を読み解く。—

東北大学大学院情報科学研究科では、毎年、市民公開のシンポジウムを開催しています。今年度は、『情報科学』から『行動の因果』を考える』をテーマにシンポジウムを下記のとおり開催いたします。

私たちは日常生活の様々な場面で行動を決めなければなりません。例えば電車の中でどの場所に座るか、お昼は何を食べるかなど、理由をつけ、または無意識に行動を選択しています。私たちの行動にはどんな要素が関係し、どのように実行されるのでしょうか。今回のシンポジウムでは、ゲノム科学、神経科学、システム科学、行動生態学、認知心理学とBMI脳科学に関する「情報科学」の専門家が「行動の因果」について講演を行い、最後に会場の皆さまを交えてパネルディスカッションを行います。

つきましては、本シンポジウムについて市民の皆様幅広く周知していただくとともに、当日はご取材の上、紙面・番組等で取り上げていただけますと幸いです。なお、ご取材の際は下記問い合わせ先までご一報ください。

1. 日時及び会場

日時：平成29年2月18日(土) 13時00分～17時00分 (受付開始12時30分)

会場：東北大学大学院情報科学研究科本部棟2階大会議室

市営地下鉄東西線青葉山駅北1番出口徒歩1分 (地下鉄仙台駅から9分)

2. 対象者・申込み方法

対象者：テーマに興味関心のある方はどなたでも (定員：150名、参加費：無料)

申込み方法：下記ウェブサイトより事前登録をお願いいたします。

URL <https://www.is.tohoku.ac.jp/sympo/>

3. 概要

駅や公園、教室などで座る席を選ぶことは日常的な行動の一つです。でも「なぜそこに座ったのか？」と問われたら、あなたはその行動を明快に説明できるでしょうか。理由は一つではないかもしれませんが、特に理由なく選んでいることも多いでしょう。実際、私たちの行動にはとても多くの要素が関係しており、そこには人類共通の普遍的な理由も、ある人に特有の理由もあるはずです。

そこで、今回の情報科学研究科シンポジウムでは、「情報科学」の視点から、行動の“みなもと”を探り、“あらわれ”を読み解き、自分の行動をどのように理解できるのかを考えます。

4. プログラム

(1) 開催挨拶 徳山 豪 東北大学大学院情報科学研究科長

(2) 講演

①「自分らしさを構成するゲノム」 講演者 木下 賢吾 教授(東北大学大学院情報科学研究科)

②「ストレスと行動の接点を探る」 講演者 井樋 慶一 教授(同上)

③「生物行動のシステム科学」 講演者 橋本 浩一 教授(同上)

④「親離れ子離れの数学」 講演者 瀬野 裕美 教授(同上)

⑤「マンガ読みの視線行動」 講演者 和田 裕一 准教授(同上)

⑥「SF映画『The Matrix』の世界は来るのか」 講演者 片山 統裕 准教授(同上)

(3) パネルディスカッション

「自分らしさとは？」 モデレータ 長野 明子 准教授(同上)

5. お問い合わせ先

東北大学大学院情報科学研究科

瀬戸屋(研究企画室) TEL:022-795-4264

E-mail: hideo.setoya.e3@tohoku.ac.jp

櫻井(総務係) TEL:022-795-5813

E-mail: is-somu@grp.tohoku.ac.jp

以上